

## 富津市社会教育委員会議会議録

1 会議の名称	平成23年度第2回富津市社会教育委員会議
2 開催日時	平成23年12月21日 午後 2時00分～午後 4時36分
3 開催場所	富津市役所502・503会議室
4 審議等事項	(1) 第12回富津市生涯学習推進大会について等報告 (2) 「地域における防災会議における社会教育施設の役割について」研修
5 出席者名	(委員) 坂井英一、齋藤啓一、土橋浩朗、黒岩功充、平野武男、渡邊秀夫、佐久間勇、小泉清治、平山悟、綾部雅喜 (事務局) 渡辺教育長、藤平教育部長、山中教育部次長、小柴生涯学習課長、進藤生涯学習課主幹、羽山非常勤一般職、石井朝子社会教育指導員、石井光一社会教育指導員、磯貝順子家庭教育指導員
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当(理由)
8 傍聴人数	0 人 (定員 5 人)
9 所管課	教育部 生涯学習課 社会教育係 電話 80-1345
10 議会議録(発言の内容)	別紙のとおり

平成23年度第2回 富津市社会教育委員会会議録

発言者	発言内容
<p>(事務局) 小柴課長</p>	<p>(本日の会議が、委員定数15名のうち、出席委員10名、欠席委員5名のため、会議が成立することを説明。平成23年度第2回富津市社会教育委員会議の開会を宣言)</p>
<p>(委員長) 小泉委員長</p>	<p>(小泉委員長挨拶)</p>
<p>(事務局) 渡辺教育長</p>	<p>(渡辺教育長挨拶)</p>
<p>(事務局) 小柴課長</p>	<p>(会議の公開についての説明) 議題に入る前に、会議録署名人の選出について協議願いたい。これより議事の進行は小泉委員長にお願いしたい。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>議題に入る前に、会議録署名人についてだが、私の指名でよろしいか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>異議なし。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>それでは、会議録署名人は、私と佐久間勇委員でよろしいか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>異議なし。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>会議録署名人は私と佐久間勇委員に決定する。 会議次第の4報告に入る。始めに(1)第46回君津地方社会教育推進大会について、当日参加した佐久間勇委員に報告をお願いし</p>

たい。

佐久間勇  
委員

それでは、私から第46回君津地方社会教育推進大会について報告申し上げます。例年富津市の花火大会と重なることを懸念しまして、あらかじめ日程をずらして予定しておりましたが、袖ヶ浦市で重複行事があるということで、急遽7月16日（土）変更し行いました。会場市の富津市としては、駐車場の狭い市民会館での会場となりましたので、大変苦慮したのではないかと考えております。しかしながら皆様の連携協力によりまして、来場いただいた方々には、不便のかけることもなく成功裡に終わることができたと喜んでおります。今回の社会教育推進大会は、あらためて社会教育を考えるをサブテーマに開催され、佐久間市長、渡辺教育長、千葉県教育委員会南房総教育事務所からは社会教育指導主事の出席をいただきました。表彰状の贈呈では、社会教育推進に寄与されました個人で5名、各市の内訳は木更津市で2名、君津市で2名、袖ヶ浦市で1名です。団体の部では2組、富津市のサイカチの篝火と薔薇座うたごえ倶楽部が表彰されました。また、共催であります新日本製鐵株式会社君津製鉄所からは社会貢献している団体に贈られるクロバー賞が、各市からの推薦を受けた4団体に贈呈されました。富津市からは佐貫城祉花木公園整備ボランティアが受賞されました。記念講演は、東洋大学文学部教養学科教授の藤本典裕氏を講師にお招きし、「たかがアニメの教育学」という演題で、サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃんの家族構成にみる人間関係をわかりやすく講演していただきました。最後にいつでもどこでも学べる社会教育との大会決議案が読み上げられまして、承認され、閉会となりました。また、8月10日ロイヤルヒルズ木更津ビューホテルにて反省会を行いました。大会会場は昨年来四市の中心にあるかずさアカデミアを使用しておりました。新日鐵を常設会場に使って下さいとの声もありましたが、大会の趣旨を鑑み、少ない予算でもあるので持ち回りでの市の市民会館等の行政施設でよい

のではないかと等々の意見もでて白熱した論議をいたしました。以上です。

(議長)  
小泉委員長

ありがとうございました。いま佐久間委員から報告がありましたように社会教育推進大会は、3年前に県教育委員会の手を離れまして四市独自の大会にしようということで、原点に返った社会教育推進大会を始めまして、参加者を200人程度に絞った内容で、大変意義のある中身の濃い大会となってきたとおもいます。少しずつですが進歩してきているとおもいます。なお質問等はすべての報告事項が終わりましたなら一括して行いたいとおもいます。それでは、報告2平成23年度君津地方社会教育委員連絡協議会移動研修について、参加しました土橋委員から報告願います。

土橋浩朗委員

はい。平成23年度君津地方社会教育委員連絡協議会移動研修について私より報告いたします。9月28日(水)に袖ヶ浦市が当番市として、さわやかな秋晴れのなかでの視察研修でした。富津市からは小泉委員長、黒岩副委員長、大野委員、私、事務局の小柴課長、進藤主幹の6名が参加しまして、四市で総勢23名の参加でした。研修の目的は青少年事業の運営状況と地域に関わる活動についての研修で、視察場所は南房総市にある大房岬少年自然の家でした。昭和55年に県立の青少年教育施設として開所。30年経過した施設です。私が中学校を卒業した年でしたので中に入ったのは初めてでした。海と緑に囲まれ宿泊体験学習、野外学習、室内レクリエーションの学習の場として多くの子どもたちを受け入れております。富津市内の小中学生も何度も利用しているとおもいます。平成17年に県の指定管理者制度の導入でNPO法人千葉自然学校に運営を委託されました。平成20年度に管理が千葉県から南房総市に移管されたときに県より運営費の補助金がなくなり、宿泊費の値上げが余儀なくされ、現在の宿泊費は小中学生で一人1,200円となっております。指定管理者導入後は、施設の運営の認可を受けなけ

ればならないということで、視察した9月時点では来年度から運営できるかわからないということでしたが、先日千葉県ホームページを確認したところ平成29年度までの5年間認可がおりたことが確認できました。視察日には稲毛区の児童が房総うちわを作る体験学習プログラムを体験中でした。学習プログラムは57種類と豊富に準備されておりまして、更に定期的にレベルアップを図っております。若いスタッフの熱意とやる気と工夫。子どもたちの生き生きとした表情があいまわって活気に満ちたすばらしい内容でした。子どもたちの健やかな成長を目指すPTA代表の私としても小中学校教育関係の活動だけでなく、子ども会や少年スポーツ団体等で利用をお勧めしたいと思っております。以上で、私から報告を終わります。

(議長)  
小泉委員長

ありがとうございました。大房岬少年自然の家は富津市でも30年前から子ども会がお世話になっている施設でもあります。委員でもあります綾部さんも子ども会の正副会長をやっておったときはお世話になっていると思います。指定管理者制度となって中身は厳しいようですが、皆さん頑張ってくれているようですので、土橋委員が言われましたように富津市でも研修等で利用していただけるといいなと思います。それでは(2)平成23年度君津地方社会教育委員連絡協議会移動研修については終わります。

次の(3)富津市民文化祭2011について私から報告いたします。富津市民文化祭2011は、10月28日の小中学校音楽の集いから始まりまして、11月3日から6日までの5日間、富津公民館、中央公民館、市民会館、総合社会体育館の4会場で開催されました。ポスターは応募作品185点の中から最優秀作品に天羽中学校1年永井春香さんが選定されポスターに採用されました。また、メインテーマは、応募作品113点の中から天羽中学校3年の諸岡久暢さんの「よってらっしゃい みてらっしゃい みんなで楽しむ文化祭」が選定されました。出演出展者総数3,924人、展示部門展

示数3, 141点、芸能部門曲目数266曲、子どもまつり部門種目数28種目で、参観者総数16, 160人でした。今年は天候に恵まれたことが原因と思われませんが、昨年の参観者総数12, 714人でしたので、3, 446人の増員となりました。私が参加したなかで残念でしたのが、市民会館で開催された富津市の親善大使の井上由美子さんが歌を聴かせていただきましたが、その前座として富津市の職員がいる親父バンドや一人バンドという一人でドラム、シンバルをたたき、笛を吹き、ギターを弾きながら歌を歌うという一人で行う大変ユニークな人が出演しまして、二組とも参加した市民の皆様に変好評で、盛り上がりました。残念でしたのは、同時刻に中央公民館では津軽民謡の発表がありまして、重なったことがもったいないと思いました。このへんは次年度にスケジュール等を検討しなければならないと感じたところであります。文化祭は実行委員会の皆様方が大変なご苦勞により、年々趣向をこらした展示物や演出を行っていただき盛大になってきております。以上で報告を終わります。

次に(4)第46回千葉県社会教育振興大会について、黒岩副委員長より報告願います。

黒岩功充  
副委員長

第46回千葉県社会教育振興大会について、私黒岩が報告いたします。11月17日(月)千葉県総合教育センターにおいて、第46回千葉県社会教育振興大会が開催され、会場の教育センターが地震による液状化現象によるものであると思いますが、マンホールが1メートルほど出ておりまして、覗いて見ますと下の方がグッチャグチャになっておりまして修繕するよりも新しく作った方が早いのではないかという状況を見てびっくりしたところであります。大会は、君津地方からの表彰者は、君津市の2名の方が表彰されました。また、事例発表は、長生地区より一宮町体育協会の活動について、夷隅地区の子ども会活動を通じた社会教育、安房地区の南房総市における家庭教育事業についての3件の事例がございました。記

念講演は、社会教育について考えるということで、「今だから考える 社会教育委員や教育関係者の果たす役割」と題し、講師に NPO 法人スクールアドバイザーネットワーク理事長の生重幸恵さんという女性の方のお話がありました。実はこの方が杉並区におりまして子どもが入学して、PTA の役員となった時、小中学生がコンビニにたむろしておりまして、これを無くさなければならないということでスタートしたことから始まり、平成 14 年に同法人を設立。平成 15 年から東京都教育庁生涯学習審議会委員として東京都内各区の教育委員会とも連携。全国各地での学校支援、地域活性化のプロジェクトに参画し、平成 19 年には内閣府の地域活性化伝道師に任命され、現在では東京都社会教育委員副議長として幅広く活躍されている方です。たまたま私の身内が杉並区に住んでおりまして、昔子どもが入学したところ学生がコンビニにたむろしており、怖いと言っていたことを思い出しました次第であります。早く気がついた方が人生の勝ちになるんだろうと考えました。大会後、杉並区の娘が帰ってきたときに、杉並区では昔コンビニにたむろする学生をなくす取り組みをやった女性がいたんだねといったら、娘がすごい人だよ。教育熱心で学校の先生も負けるほどの人だよと言っていたので、生重さんの活躍は嘘ではないようです。最後に大会決議文を採択して閉会となりました。以上で報告を終わります。

(議長)  
小泉委員長

黒岩副委員長からの第 46 回千葉県社会教育振興大会についての報告は終わりました。

次の(5)平成 24 年成人式について、私から報告いたします。さる 12 月 16 日に公民館運営審議会が開催され、平成 24 年度成人式の開催要項が決定しましたので、その内容について報告いたします。お手元に配付してございます資料 2 ページの平成 24 年度富津市成人式開催要項に基づいて説明いたします。期日については 1 月 8 日日曜日午後 2 時から開式です。午前中は消防の出初式が例年とおりに行われます。場所は富津公民館。対象者は平成 3 年 4 月 2 日

から平成4年4月1日までに生まれた市内居住者486名及び市外転出者で出席を希望するものです。日程は、開式のことばを平野副市長、国歌斉唱のあと主催者の代表あいさつを佐久間市長、来賓の祝辞を浜田靖一衆議員議員、中後淳衆議員議員、吉本充県会議員、福原敏夫市議会議長の順に行い、成人としての意見発表は各地区出身の代表5名が行います。また新成人に贈ることばを今年是天羽東中学校の代表が行い、閉式のことばを渡辺教育長が行った後、記念写真の撮影となります。この写真撮影中今年初めての試みですが、富津公民館サークルの和太鼓の演奏を公民館の前で行い新成人を送り出そうとのいうことになりました。富津市の成人式はなごやかなうちに厳粛な式が行われているということです。招待状も届くと思いますが是非とも社会教育委員も成人式に参加してお祝いしていただきたいと思います。以上で成人式の報告は終わりました、続いて次の(6)第12回富津市生涯学習推進大会についても私から報告いたします。去る10月26日にこの大会の主管であります富津市生涯学習推進協議会が開催され、第12回富津市生涯学習推進大会の開催要項が決定いたしましたので報告いたします。お手元の資料3ページをご覧くださいと思います。期日は平成24年2月5日(日)13時20分から富津公民館で開催いたします。開会前に例年のおり12時45分から教育委員会表彰を行います。大会テーマは、学びから生きがい生きがいをまちづくりへです。大会の司会ですが今回は市民会館でおこなっております司会術サークルのブルースカイが行います。オープニングアトラクションは県立君津商業高等学校の吹奏楽部による演奏で、記念講演の講師は、静岡大学名誉教授の小和田哲男氏で、「戦国三姉妹と信長、秀吉、家康」と題した講演をお願いしております。講師の小和田氏は、日本の文学博士、歴史学者で、特に日本の戦国時代に関する研究で知られている人で、執筆、講演活動のほかにNHKのそのとき歴史が動いた、また大河ドラマ秀吉、功名が辻、天地人や少し前まで放送していました江姫たちの戦国の時代考証を監修されている方で



<p>(事務局) 渡辺教育長</p>	<p>す。閉会のことばを渡辺教育長が行いまして大会は終了となります。これも社会教育委員の参加をお願いいたしまして、報告を終わります。以上ですべての報告は終わりましたが、ここでなにかお気付きの点がありましたのならお願いいたします。</p> <p>委員からはないようですが、事務局から補足説明等ありますか。</p> <p>平成24年成人式については小泉委員長から報告があったとおりであります。今回の成人式が今までの成人式と変わったところが三つあります。一つ目は先程お話がありました和太鼓の演奏を行うことです。この演奏を外で行う計画ですので、雨だったら中止にしているのか今事務局の方で検討しているところであります。二つ目は来年1月に成人を迎える人たちが中学3年生の時に20歳になった時の自分に手紙を書いています。今回の新成人が初めてのことです。本人への案内状と一緒にその封筒も送付してありますので、その手紙を読んだ後に参加してくれることとなります。三つ目は主催者挨拶で市長と教育委員長の2人がおこなってりましたが、市長が代表で行い、教育委員長はお祝い文で終わることとなりました。できるだけ中身の濃い、お祝いする気持ちをしっかりと表せて、彼らがこれから頑張って生きていこうという気持ちになれるような成人式にしたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。また、終わった後には感想をいただいて次の機会に生かしていきたいと考えております。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>ほかにございますか。</p> <p>はい、渡邊委員どうぞ。</p>
<p>渡邊秀夫委員</p>	<p>成人式のことですが、市内居住者486名と言われましたが、昨年を見るとどのくらいの方が参加すると考えていますか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>昨年の例をみますと7割から8割の参加者でしたので、350名</p>

山中正弘次長	から400名位かなと思います。
(議長)	ほかにございますか。
小泉委員長	はい、平山委員どうぞ。
平山 悟委員	成人式のやり方についていいですか。成人式を迎える人たちを入れて成人式の進め方を協議することも一つの方法かと思うんですが。北海道の方で成人式を迎える人たちが企画運営をし、盛会の内に成人式が行われたことがありましたが、今のように年寄りが考えるのか。若い人たちを入れて考えるのか。私の思いとしては、若い人たちの考えを入れた成人式ができると良いと思いますが。
(議長)	いま平山委員からお話がありましたが、富津市の成人式は若い人たちの意見を取り入れて少しずつ変わってきていると思います。たとえば司会者だとか。中学生からのお祝いの言葉とかですね。以前は中学卒業当時の担任の先生から挨拶をいただくとか行っていました
小泉委員長	平山委員の言われるように成人式実行委員会のようなものを自分たちで作ってもらえると良いと会議で話しております。一日も早く成人者による式典ができると良いと思います。
平山 悟委員	少し私が言った意味が違うんですが、成人式を開催する時点から成人式を迎える人を受け入れて、式の進め方などを検討していくと言ったんです。中学生や恩師を呼ぶとかが嫌じゃないんです。企画からすべての段階で市役所が主導権をもってやっていると思うんですが、企画運営の段階から若い人を入れてやってほしいと言っているんですよ。参加型となるとと思いますが、もっと若い人の意見を取り入れてほしいんですよ。我々年寄りの考え方と若い人たちの考えは違うと思うんですよ。自分たちが企画運営をすれば、仲間が仲間を呼ぶと私は思っているのです。

渡邊秀夫委員	私もそう思います。最初から入っていれば是非一緒にやろうよということで、裾の輪が広がると思います。それを手掛ける行政とマッチできれば大変良いと思いますが。
平山 悟委員	若者の成人式に対する考え方が行政とマッチできればならないと思いますよ。また活性化ができると思いますが。
(議長) 小泉委員長	貴重な意見ありがとうございます。ほかの委員さんなにかありますか。佐久間委員どうぞ。
佐久間勇委員	その成人式ですが。20歳ということで追々富津市の将来を担ってくれる子どもたちなんです、アンケートを取る形で生まれ育った富津市に住んでもらう。結婚して家を建てて住んでもらうために、なにが不足しているのか。富津じゃなく他に行っちゃうよとなれば、せっかく20歳になるまで親に世話になって、市が成人式でお祝いをしたら、そうしたら新成人が他の所に転出しちゃうと人口が減っちゃう。そういうことを阻止することを考えた場合、その部分で逆にアンケートを取れるチャンスだと思う。富津市に是非住みたいが、この部分に魅力がないよとか率直な意見を聞くこともできれば更なる人口減少の防止につながると思うのですが。
(議長) 小泉委員長	大変難しい意見も出されましたが。ほかに。
黒 岩 功 充 副 委 員 長	先ほど生重幸恵さんの講演の報告をしましたが、ここに学校関係者の坂井先生がおられますのでお聞きしたいのですが、その講演のなかで教師の平均勤務時間は11時間とっておりましたが、本当なんでしょうか。
坂井英一委員	確かに学校の勤務時間は一応決められておりますが、教育課程が

変わって教科書も分厚くなっておりますし、実際のところ事務的にはそのぐらいの時間になってしまうだろうと思います。小学校と中学校とでは違いがあると思いますが。私の立場としましては、早く帰りなさいと日頃から言っており、できるだけ早く帰るよう指導しておりますが。

黒岩功充  
副委員長

勤務時間が長く先生も大変厳しいですね。なぜ長くなったんでしょうか。

坂井英一委員

勤務時間が長くなった理由はいろいろあると今個人情報漏洩等の問題がありまして、個人情報のあるものは学校から持ち出さないようになっておりますので学校内での仕事量が多くなりますし、先ほどお話しました教育課程の問題で、決められた時間のなかで子供たちに教えなければならないことも増えてきております。どうしても学校内で事務処理をしなければならないことも多いので帰宅がどうしても遅くなる状況ですが、それは教員が多忙と考えるのか、生きがいと感ずるのかいろいろな考え方があろうかと思いますが。確かに仕事量が増えてきていると思いますが。

(議長)  
小泉委員長

他にございますか。ないようですので報告事項を終わります。次に(5)研修会に入りたいと思います。講師は総務防災課の在原主幹をお招きし、地域における防災活動における社会教育施設の役割についてをテーマに勉強会を行いたいと思いますが、ここで講師をお呼びしますので、暫時休憩といたします。

(議長)  
小泉委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。本日の研修会は総務防災課の在原主幹を講師にお招きし、地域における防災活動における社会教育施設の役割についてをテーマに勉強会を行いたいと思います。それでは在原主幹説明をお願いいたします。

<p>(講師) 総務防災課 在原政司主幹</p>	<p>私は、総務部総務防災課で防災を担当しています在原と申します。これから「地域における防災活動について」と題しまして、出前講座を開始させていただきます。始にお断りをしたいと存じます。私ごとですが、本日、のどの具合が悪いため声が聞きづらいと思います。御容赦願います。皆様には、平成23年度第2回富津市社会教育委員会議に引き続き、お疲れのところ、しばらくお付き合い願いたいと存じますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、始めさせていただきますが、時間が長くなりますので、着席させていただきます。ここで、配布資料の確認をさせていただきます。資料は、3枚綴りの資料、1部でございます。</p> <p>なお、本日の説明は、現在、市内で開催しています、市民と市長の対話集会のテーマと同じであるため、内容が多々、重複していますが、よろしくお願いいたします。資料の1ページをご覧ください。始めに、富津市の災害について、ご説明いたします。富津市では、過去に風水害で大きな被害を受けています。平成元年7月31日から8月1日にかけて総雨量459mmの豪雨を記録し、死者1人・負傷者6人・住家の全壊11棟をはじめ、道路の決壊・がけ崩れ・田畑の埋没等により、その被害額は60億9千2百40万円に及びました。この災害において市は、危険区域住民に対し避難勧告を行い、26か所の避難所を開設し420人の避難者を収容しております。また、平成8年9月の台風17号では、総雨量が262mmを観測し死者1人・負傷者1人のほか、住家の全壊1棟・床上浸水18棟・床下浸水151棟および道路・河川・農地などに大きな被害を受けました。今年の災害といたしましては、3月11日に東日本大震災が発生いたしました。被害は、津波被害として、沿岸部を中心として、住家の床上浸水が4棟、床下浸水3棟・漁業関係では、漁船の転覆等が65隻・海苔ベタの破損や漁業関係で、漁業協同組合5組合における被害額は、14億円を超えています。また、地震被害といたしましては、住家の一部破損9棟、農道の亀裂、市及び学校施設の破損等が確認されています。この震災では、東北地方を</p>
----------------------------------	---

中心に甚大な被害が発生し、この災害を契機に、様々なところから災害が起きた時の自助・共助・公助の重要性がより一層求められております。

次に、台風災害といたしましては、9月21日の台風15号で、住家や車両の一部破損や漁業及び農業関係並びに市及び学校施設の破損、電線の切断・発火、倒木など、風による被害が多く発生しました。また、富津市では、台風の接近を受け、災害対策本部を設置し、市内8か所に自主避難所を開設、25人の方が避難され、中には要援護者の方も数人おりましたが、地元の区長さんや支援者のご協力により無事避難することができました。

続きまして、東日本大震災、3月11日の地震発生時における、市の対応及び避難者の状況についてご説明いたします。資料の1ページ下段から2ページをご覧ください。地震は、午後2時46分に発生し、富津市役所の震度計は震度4を記録しました。地震に伴う津波情報としては、「津波注意報・津波警報・大津波警報」と連続的に発表されましたので、防災行政無線により沿岸地域の方々に高台への避難を呼びかけました。資料の2ページをご覧ください。富津市では、大津波警報が発表された午後4時08分に「災害対策本部」を設置して、配備体制を整えました。その後、直ちに消防本部・消防団を中心に海面監視や被害情報の収集を開始するとともに、社会教育施設を含む、市内17か所に自主避難所を開設し、各避難所に必要物資の搬送を行いました。避難所の運営につきましては、地元の皆さんのボランティア活動の協力を得ながら、避難された方々へ非常食・飲料水・毛布や暖房器具等を用意して対応しました。また、大佐和・天羽地区では停電となったため、発電機や投光器を搬送し、避難所の対応を行いました。避難所に避難された方は、合計1,178人で、その中で特に多くの方々が避難された避難所としては、最多で金谷小学校の300人・佐貫小学校および中央公民館がそれぞれ200人・市民会館が115人でした。このうち、金谷小学校と佐貫小学校につきましては、東京湾フェリーやJR内房線が運

行中止となったため、浜金谷駅と佐貫町駅では大勢の観光客が足止めされ、いわゆる「帰宅困難者」の方々が、地域の避難者と一緒に避難されています。帰宅困難者の方々に対しましては、富津市として翌日、J R 君津駅から午後 1 時 21 分の上り方面への電車の運転再開に合わせ、避難所からのバス輸送を計画し、希望者を募り君津駅まで送り届けました。このような避難所運営に対しまして、帰宅困難者となった方々から感謝のお手紙を頂戴しています。

次に、震災後における市の取り組みについて、ご説明いたします。東北地方の被災県から富津市に避難されている方々への支援としては、避難されてきた方々への一時避難施設（いつときと読まさせていただきます。）の提供として、「大佐和老人憩の家」を 3 月 30 日から 6 月 30 日まで開設しました。長期避難施設として市営住宅 2 戸の入居を募集して、現在 1 戸に入戸がなされています。また、既に市内に居住されている方々へは、障害福祉サービス・各種検診・予防接種・国民健康保険税・水道料金の免除などのサービスを行っております。

資料の 3 ページをご覧ください。次に、防災・減災対策の強化について、ご説明いたします。市では、防災行政無線により皆様に様々な情報をお知らせしていますが、放送の内容が聞きづらいとか、うるさいなどのご意見が多く寄せられております。防災行政無線につきましても、緊急的な災害情報など、いち早く皆さんにお知らせするための設備であり、全国、多くの市町村で整備されています。

今後も、災害に対する第一次情報伝達手段として、その重要性が増していますので、必要な改善を図りたいと思います。また、富津市では、放送内容を確認するための「富津市防災行政無線テレホンサービス」を行っていますが、放送内容を聞き逃したり、どうしても聞こえなかったというご意見を解消するため、緊急情報を正確に・素早く・確実に伝えるため、携帯電話などを利用した「富津市安全安心メール」の配信を 4 月から開始しました。配信内容につきましては、防災情報・火災情報・防犯情報・環境情報・生活情報な

どであり、受信料は有料となりますが、現在、約3,700人の方が利用されています。次に、津波対策といたしまして、市内の避難所の標高を測定して、44か所の収容避難所に標高の表示を行いました。標高表示につきましては、沿岸部の場所に表示をしていただきたい。との意見が多くありましたので、現在、標高の低い地域の幹線道路の東京電力の電柱200か所に海拔表示を予定しています。

次に、放射線対策についてご説明いたします。福島第一原子力発電所の事故発生以降、放射性物質による影響が心配されることから、定期的に水道水や保育園・保育所・小中学校等の大気および土壌の検査を行い、市のホームページなどで公表しています。さらに、富津市放射性物質除染計画を策定し、子供たちの生活を優先として、市の施設の側溝や雨どいなど、周辺より放射線量が高いことが予測される箇所を測定して、目標値を定め、超えた場合は、除染処理を行うことになっています。また、9月には、区長回覧では、市民一人ひとりが防災意識を高めていただける様緊急持出袋を全世帯に配布させていただきました。

次に、総合防災訓練についてご説明いたします。富津市では、市民の防災意識の高揚及び防災行動力の向上、並びに市民と防災関係機関との連携強化を図るため、「総合防災訓練」を小学校区単位で毎年実施しております。本年度は、去る9月25日の日曜日に吉野地区を対象として、吉野小学校で実施いたしました。当日は午前9時に「三浦半島断層群地震」が発生し、地震の規模はマグニチュード6.9を想定し避難訓練を行うとともに、地域の皆さんが直接参加する消火器取扱い訓練・救急救護訓練・煙体験訓練・炊き出し訓練などを行いました。

次に、消防防災センターの建設、防災機能強化につきましてご説明いたします。市民の安全で安心な生活を確保するため、消防機関の役割は極めて重要であり、災害時の活動拠点となる、消防庁舎につきましては、現在、老朽化に伴い、富津郵便局脇に建て替えを進め



ています。有事の際には、臨時ヘリポートとしての機能や、災害時の物資補給基地としての備蓄倉庫を備え、施設内には、防災物品や資料の展示スペース、煙の中を通過する訓練や消火器、消火栓の訓練が常時できるスペースを設けるとともに、災害が発生した場合には、市の災害対策本部と連携し、消防機関の通信網を活用し、情報収集を行いながら現場対応を統括する計画となっています。

次に、地域防災計画の見直しに係ることになりますが、避難所の指定について、現在の計画では、台風などの風水害や地震・津波災害時の避難所として、公園や広場、公的施設などを指定していますが、標高等を考慮した見直し、指定する必要があると考えています。また、標高の低い沿岸部の方々の避難対策といたしまして、各地域の鉄筋・鉄骨、2階建以上の建物を緊急的な一時避難場所として開放していただける様、所有者の方との調整を図るための準備を進めています。11月1日には、金谷地区にあります、東京都情報サービス産業健康保険組合の「金谷城スポーツセンター」の体育館を、津波時における一時避難所としての協定書を締結いたしました。今後も、沿岸部の施設等と協定を順次行う予定です。避難所の運営面につきましても、今回の震災では最大1,178人の避難者があり、避難所において一夜を明かされたことを踏まえ、必要とされる物資等の充実を予定しています。さらに、地域防災活動としては、出前講座において自主防災組織の設立や、各地区における自主防災訓練を行っています。震災を契機として、出前講座の回数が増え、9月には、千種新田地区、11月には、金谷地区で津波避難訓練を含む防災訓練を行い、それぞれ約300人の区民の方々が参加され、今迄、防災講話や訓練など15回1,003人の方が参加されています。また、自主防災組織の設立支援につきましましては、富津市においては、平成元年の大災害を教訓に、平成2年度から自主防災組織の育成を推進し、平成23年12月1日現在で50団体が組織を結成されています。今後も公的な防災力だけで対処しきれない事態に備えるため、即応性を有する地域のみなさんによる、自主的な初期消

火、安否の確認、災害時要援護者への避難支援の実施、あるいは平常時の防災訓練等の展開を期待して出前講座等を活用し、市内全域に自主防災組織の設立支援を行ってまいります。

次に、防災に関する課題について、ご説明申し上げます。資料の3ページ中段をご覧ください。富津市では、現在「津波高潮ハザードマップ」を作成し全世帯に配布する計画で準備を進めています。このハザードマップにつきましては、新富地区から金谷地区に至る沿岸部における、津波浸水の危険性のある地域の範囲・避難所・避難経路・標高などを図面に示したものでございます。しかしながら、今回の地震を受け、現在、千葉県が津波浸水区域の見直しを行っておりますので、富津市としては、千葉県の発表後に作成をすることになりますから、マップの完成までは、やや期間が必要となります。ハザードマップにつきましては、津波高潮ハザードマップのほかに土砂災害ハザードマップがあり、毎年のように全国各地で発生している土砂災害に対応して、きめ細かに作成するもので、現在作業を進めております。市内におきましても、土砂災害の危険か所が県の調査で内陸部を中心に730か所存在します。今後、千葉県がすべての危険か所を「土砂災害警戒区域」に指定し、土砂災害の恐れのある区域について危険の周知、災害情報を早く正確に伝達し避難が速やかに出来る体制の整備を行い、指定に基づき市がハザードマップを作成し該当する地域のみなさんに配布する予定です。12月1日現在、市内では、132か所が指定されています。場所は、飯野地区12か所、大貫地区17か所、吉野地区24か所、佐貫地区14か所、湊地区3か所、天神山地区13か所、竹岡地区19か所、金谷地区8か所、環・環南地区19か所、関豊地区3か所となっています。このほかにも富津市地域防災計画の見直しを行わなければなりません。3月11日の震災を受け、富津市では災害連絡員会議を開催し、災害対応についての反省点等の取りまとめを行いました。内容につきましては、市民の皆さんに対する情報伝達・情報収集・備蓄物資・避難所の運営・職員の配備体制等であります。現在

見直しに向けての準備に取りかかっていますが、国や県の方針が出まないと、進まない作業もありますので、国・県の動向を見守っている状況です。計画の見直しの具体的な項目につきましては、まず、避難所開設時における確実な職員の配置が考えられます。開庁時におきましては、避難所の開設を決定後、直ちに職員を避難所に向かわせることができますが、閉庁時に災害が発生した場合の担当職員の参集方法が問題になります。また、避難所を開設した場合の災害対策本部と避難所間の連絡方法につきましても、大きな災害が発生しますと、一般加入電話や携帯電話の通話ができない状態に陥り、情報が途絶えてしまいます。備蓄につきましても、現在、富津地区・大佐和地区・天羽地区、各1か所に防災備蓄倉庫を設置しております。また、金谷小学校・関豊小学校・旧環南小学校に簡易型備蓄倉庫を設置して、それぞれ非常食・水・毛布などの備蓄をしていますが、市内全域に大規模な災害が発生した場合には、開設した避難所への物資の搬送ができなくなる状況が考えられます。今後、このような問題点を解消できる「防災計画」の見直しを行って参ります。資料の4ページをご覧ください。地域の防災活動として、市民の皆様をお願いしている自助・共助について、ご説明いたします。市内に災害が発生した場合、富津市は、皆様に対しまして最大限の支援をいたしますが、市内全域に大規模な災害が発生した場合は、行政機関の行動は、著しく低下いたします。発災直後における対応につきまして、市民の自助の行動で、避難行動として、自分の避難場所の把握、災害時における非常持出品の準備、災害時における家族間の連絡方法の確認、をお願いします。共助の行動につきましては、まず、自分の身の安全を確保した後に、ご近所同士の助け合いをお願いします。市で進めています、要援護者安心ネットワーク事業におきましても実施していますが、身近な高齢者や障害者の方に、避難の補助をお願いいたします。災害が発生した場合に一番頼りになりますお隣ご近所が助け合う組織自主防災組織が大変重要となりますので、「自主防災組織」の設立・活動をお願いしています。

資料の5ページをご覧ください。最後になりましたが、社会教育施設の役割について、ご説明いたします。始めに、災害時の役割としては、避難場所の施設となりますので、避難者を受入れ、施設使用をお願いいたします。なお、今後は、施設に備蓄品の備蓄も検討する必要があると考えています。また、平常時の役割としては、公民館等の社会教育施設等を活用した防災教育活動があります。これは、公民館における学級・講座などの実施や情報提供となります。以下の記載は、今年度、社会教育施設で行われた出前講座、情報提供の主なものを記載してみました。富津公民館で2回、女性の趣味教養講座と対話集会。中央公民館で4回家庭教育学級、市民文化教養講座、対話集会、まちづくりフォーラム。市民会館で1回、対話集会が行われ、防災教育活動が行われました。これら、社会教育施設は、防災に関しての役割も重要となっていますので、今後ともご協力をお願いしたいと思います。以上で、私からの説明を終わらせていただきますが、御質問がありましたらお受けいたしますので、よろしくをお願いいたします。

(議長)  
小泉委員長

ただいま在原主幹からの説明が終わりましたが、委員から質問等ございますか。

坂井英一委員

資料の3ページに地域防災活動として、平成23年12月1日現在50団体組織が設置されているとありますが、自主防災組織を設立するにはあたってどなたが中心に行って組織を設置するのでしょうか。

(講師)  
総務防災課  
在原政司主幹

市内107区の行政区があります。自主防災組織が設立には基本的にはその区長さんを中心に行っていただいております。

坂井英一委員

湊小学校ですが、地域で自主防災組織ができていることがなかなか

<p>(講師) 総務防災課 在原政司主幹</p>	<p>か伝わってこないなので、学校が避難所となったときには避難所運営をどうしたらいいのか日頃常に心配しておりますが、区長さんにはどのように働きかけていったらいいのか。</p> <p>自主防災組織が設立されている区でも区長さんが変わってしまうとその活動も増えたり、少なくなってしまう場合もあります。市の組織もこの11月1日から防災担当の係が新たにできました。いままで防災係がありませんでしたので、なかなかできている区の活動の支援もできていない状況でしたので、今後はできている区の活動を報告してもらい災害時での対応がスムーズに図れるような体制ができるようにしていきたいと考えております。</p>
<p>(議長) 小泉委員長 佐久間勇委員</p>	<p>ほかに。</p> <p>市内107区の行政区のうち50区しか自主防災組織ができていない状況です。福祉の関係では、支援ネットワークができていて、災害時には自主防災組織にお願いすることになっておりますが、なぜ自主防災組織がなかなかできにくい状況がネックだと私は思うですよ。私が常に言っていることは、自主防災組織は別の組織を作るのではないですよと言っているのですが、住民の隣近所の人たちが家が壊れたらどのように人を助け出すとか、火事になったらどうするとか、血が出たら怪我人をどのように対応するとかのいろいろな知識を学ぶ活動が自主防災組織だと言っています。区長さんに言わせると防災訓練を行った時もしも怪我人がでたら誰が責任をとってくれるのかという話になってしまいます。107区を全部100%の組織が設置されていないと災害時になにも対応できない。4年前に42か43の組織がやっと50になった。その動きが鈍いよ。なぜ組織が増えない事情が聞きたい。</p>

<p>(講師) 総務防災課 在原政司主幹</p>	<p>いろいろな事情がそれぞれの区にあって組織が設置できない状況なんです。それ以上は今なんとも言えません。申し訳ございません。</p>
<p>佐久間勇委員</p>	<p>出前講座というのは、希望があつての出前講座ですね。希望があるところはまだやる気があるんだけど。行政からどんどん出前に行くんですよ。出前に行って自主防災組織とはこのようなことをやるんですよと説明しなければなかなか組織は増えないよ。行政はまだまだ努力が足りないと思う。</p>
<p>(講師) 総務防災課 在原政司主幹</p>	<p>11月から防災担当係ができましたので、まだ震災の関係の事務を引き継いでおりますが、これから来年にかけてこちらから自主防災組織の設置について説明を行いたいと考えております。金谷地区や竹岡地区でまだ準備段階であります、そのような動きもありますので、自主防災組織の設置について、こちらから説明に行きたいと考えております。</p>
<p>佐久間勇委員</p>	<p>大地震と言えば津波と考えますが、津波の対応で市民に避難勧告をするタイミングが問題で、避難勧告をした時、市民は逃げようと避難所に避難して来たとき、避難所が開いていない。誰が避難所を開けるのか。職員が開けに行くのか。事前に誰かにカギを管理してもらって開けるのか。もろもろのことが皆に周知されていなければいけない。また、情報収集の一元化が必要となる。その情報を避難所に知らせなければならない。やり取りも当日は携帯電話がもちろん使えない状況であるから、消防無線による情報収集の伝達でもいいのですが、伝達方法がまだまだできていないと思いますが。対岸の横浜は、1704年の元禄地震を考えて2.1メートルまで水が上がったので3メートルに決めたんですよ、こちらの沿岸部は2メートル位の所が多いので向こうより水が上がるんですよ。浸水区域が多くあるんですよ。富津市は津波を何メートルと考えている</p>

のか。県が示すのか。国が示すのか言っていたら遅いんですよ。対岸が2.1メートルを3メートルにしたならば富津市は最低3メートルと決めて、今後は対応していかなければならない。そうすれば2階建ての建物に避難するのはだめだから鉄骨3階建て以上に避難しなければならないこと住人は考えることになります。まだ示されていないのでということは遅いですよ。危機的な話を事例的に言われても皆さん納得しないですよ。

(講師)  
総務防災課  
在原政司主幹

今回の震災で、津波の時は避難所に逃げると考えた方が非常に多かったです。その避難所での被害を受けた方々が多かったわけですが、とにかく逃げてもらうことが一番なんです。今後は県で浸水区域の見直しをしておりますので、遅いかもしれませんがその結果をふまえてやっていきたいと思えます。

佐久間勇委員

津波のこないことを祈るしかありませんが、今度造る防災センターは、完全に強度なものを造ると思うのですが、地震計は設置するのか。

(講師)  
総務防災課  
在原政司主幹  
佐久間勇委員

いま地震計は庁舎の職員出入口のところに設置されておりました、その情報が県に行くようになっておりますので、あらたに設置はしないと思えますが。

なぜそのことを聞くかという、この前の3.11の地震で木更津市周辺は5強で、富津市は地盤が良いのか震度4だと。それが解せないんだよ。震度4より大きい。壁が壊れたりしていても震度4とはおかしい。経験で我々は体感震度をもっている震度4以上だと思っても富津市の地震計は4だというのは、震度計が壊れているのじゃないのか疑ってしまうよ。

(講師)  
総務防災課

震度計の点検は、毎年県の方で検査を行っているので、そのようなことはないと思えます。

<p>在原政司主幹</p>	
<p>(議長)</p>	<p>ほかにあるか。</p>
<p>小泉委員長</p>	
<p>土橋浩朗委員</p>	<p>私の地区でも自主防災組織ができており、アルミのリヤカーとかチェンソーなどがありますが、訓練とか使用方法とかいろいろあると思いますが、組織を造ればいいのではなく、住民からの要望しなければならぬかと思いますが、もう少し市の方で指導とかないのでしょうか。</p>
<p>(講師)</p>	
<p>総務防災課</p>	
<p>在原政司主幹</p>	<p>先程も話しましたが、今まで防災専門の担当の組織がなかったので、いろいろな活動ができなかった状況でありましたが、11月から防災担当係ができましたので、今後はこちらから防災組織ができている区に出向いて、活動はどうでしょうかと確認、指導等を行うことをおこなうことが、防災担当専門係がおこなうことができるようになりました。</p>
<p>(議長)</p>	<p>ほかにあるか。</p>
<p>小泉委員長</p>	<p>ほかにはないようですので、5の研修会は修了いたします。ここで暫時休憩といたします。</p>
<p>(議長)</p>	
<p>小泉委員長</p>	<p>休憩前に引き続き会議を開きます。会議次第の6その他に入ります。始めに委員から何かございますか。</p>
<p>綾部雅喜委員</p>	<p>教育長からの挨拶のなかで話がありましたが、金谷の美術館で1月2日から22日の間海を超え支えあう子ども達展が開催されますが、それとあわせて金谷のフィッシュで1月7日から9日の間に千葉県のでこ入れもありまして、「きらきら房総誰と行く」と題して経済活性化を目的に大規模に行われます。県知事も7日には見</p>



えるそうですが、富津市を選んでくれましたので、地域活性化のためよろしくをお願いします。

黒岩功充  
副委員長

先程生重幸恵さんの話をしましたが、たむろしている子どもたちの件でも私とあの方の考えが違うと思うのは、よく考えると生重さんは女性ということで、母性本能的になんとかしなければいけないという考えがあったと思います。私の場合はなんとかなるだろうと時間が解決してくれるという考えがありました。あの方は、親たちやらやらなければいけないという女性という母性本能的な考え方だと思います。つきましては、当委員会では女性が1人だけですので、もう少し増やせないのかという提案なんですけど、もちろんまだ任期がありますので、すぐということにはできないと思いますが、この次ぎの委員の人選のとき女性委員を増やせないかと思います。私も推薦団体から出ておりますので、推薦団体に女性をとすることは行政から話ができないと思いますので、委員のなかで学識経験者からの選出がありますので、その学識経験者から女性を1人でも委員を選出してもらえば、女性からの視点ということで見る目が変わってくるかと思っておりますので、市の社会教育行政に貢献できると思いますので女性委員を増やしていただきたいと考えての提案です。

(議長)  
小泉委員長

黒岩委員より、女性委員を増やした方が良いとの話がありましたけど、そのことについて意見ありますか。

渡邊秀夫委員

同感です。今国の方も力をいれてますし、女性の方が人数も多いので、女性委員が多くなることは大変良いことだと思います。

(議長)  
小泉委員長

教育長いかがですか。

(事務局)

私も同感です。市といたしましても各種委員の選出につきまして

<p>渡辺教育長</p>	<p>も女性委員をお願いするように努めております。この委員はたまたま今女性が1人ですが、各種団体に推薦をお願いしておりますので、どなたが推薦されてくるのか分かりませんが、できるだけ女性の方をお願いするとの方法もあるかと思えます。また、このような方がいますとかの情報を事務局の方に推薦をいただければありがたいと思えます。少しでも女性委員が増えればと考えます。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>他にあるか。ないようですので事務局からありますか。</p>
<p>(事務局) 進藤主幹</p>	<p>資料で添付してございますが、新春、冬季休業中等における行事の紹介ですが、体育振興課関係で5件、生涯学習課関係で3件の行事を予定しておりますので、年始でご多忙かと思えますが委員の皆様参加をお願いいたします。また、小泉委員長から報告がありました第12回富津市生涯学習推進大会のご案内を同封してございますので、ご多忙のところ誠に恐縮ですが是非ご参加願いたいと思えます。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>他にあるか。ないようなので、議事を終了する。</p>
<p>(事務局) 小柴課長</p>	<p>(第2回富津市社会教育委員会議の閉会を宣言。)</p>